

2016 南ユタ大学短期プログラム 報告書

函館校 国際協働グループ 3年 渥美 真紀

今回、私は南ユタ大学への約三週間の派遣プログラムに参加してきました。アメリカは今回の渡航が初めてであり、3週間の海外経験というのも今までで最長の期間だったので、緊張と期待でいっぱいでした。

初めてのアメリカは驚きと発見の連続でした。3週間はあっという間で、何度帰りたくないと言ったかわかりません。それくらい、とても魅力的で充実した時間でした。たくさんの経験の中で、特に一つの項目について以下に報告します。

▼大学での生活

南ユタ大学はアメリカでは小さい部類に入る大学らしいのですが、教育大の何倍もの広さでした。アメリカの広大さに驚かされました。専攻ごとにいくつもの建物があり、そのほかにフットボールのスタジアム、プールやクライミングができる施設、劇場などもありました。学食も、ビュッフェ形式のものやピザ、ハンバーガーなど数種類のお店があり、私は普段はサンドイッチを作って持って行っていたのですが、学内のお店も数回利用しました。

私たちは9時から12時までは先生の授業を受け、1時半から提示されたトピックについて自分の意見を書くライティングをそれぞれ行い、3、4時頃から韓国人の留学生たちとライティングと同じ内容のディスカッションを行いました。午前中の授業では、プレゼンテーションの準備や発表をしたり、教育学部の学生の授業でディスカッションをしたりしました。午後のディスカッションは数グループに分かれて行い、韓国人の留学生たちがリードしてくれました。身近なものからあまり考えたことのないものまで、様々なテーマで意見交換をしました。個人的に、この時間が一番勉強になったのではないかと感じています。自分の意見を英語で伝えるというのはとても難しかったのですが、トピック以外にも韓国と日本の文化の違いなども聞きあったりして、楽しく充実した時間になったと思います。

通常授業以外にも、韓国、中国の留学生たちと国立公園であるブライスキャニオンに行ったり、おもちゃ作りをしているNPOを訪問したり、ハイキングをしたり、様々な体験をすることができました。

▼ホームステイ

プログラム期間中はホームステイをしていました。私がお世話になった家族は夫婦と8歳、6歳の子供が2人の4人家族でした。この家には私のほかに函館校からもう1人ホームステイをしました。家はとても広く、寝室、キッチン、バスルームを私たち専用に提供してくれました。

家もさることながら、家族が本当に素敵な人たちで、私はこの家にステイできて本当に幸せ者だと思っています。ホストファザーは大学までの送り迎えや、夕食を作ってくれました。ホストマザーは夜に私たちの宿題を見てくれたり、やりたいことや行きたいところを何度も聞いてくれました。家族でハイキングに行ったり、映画を見に行ったり、たくさん私達を外へ連れ出してくれました。そして何より、子供たちがとてもかわいくて、家では毎日一緒に遊んでいました。子供たちは学校には行かず、親

が家で勉強を教えるホームスクールの形式をとっており、日本では馴染みのない光景でした。

家庭には愛情表現があふれていて、毎週日曜日にあるファミリーミーティングではみんなの今週の出来事と来週の予定を確認し、最後に円陣を組みます。将来こんな家庭を築きたいと思ってしまうほど、仲が良くて素敵な家族でした。

▼宗教

ユタでは多くの人々がモルモン教という宗教を信仰しており、私のステイしたホストファミリーもモルモン教でした。モルモン教はコーヒーやお茶、アルコールを飲まない、贅沢をしない(肉などは控えめ)、月初めの日曜に断食があるなどの戒律が存在する宗教ですが、私のホストファミリーはそこまで厳しい家ではなく、お肉もたくさん食べましたし、断食も特にありませんでした。家によって程度が違います。ただ、食事前にはお祈りがあり、家族はカフェインやアルコール類は一切摂取していませんでした。

モルモン教を知りたいと思い、毎週日曜に教会で行われている証会というものに参加してきました。独身の私くらいの年代の人たちの集会で、私が参加したのは月初めの日曜だったので普段より特別なものだったようです。最初の1時間は祭壇の前で参加者が一人ひとり、自分に起こったことで神の存在を感じた瞬間を語っていました。そのあとの1時間はクラスに分かれて思想に関する授業を受け、最後の1時間は男女に分かれて戒律に関する議論をしていました。宣教のために日本に住んでいた学生が何人かいて、日本語で説明してくれました。私達日本人は、普段あまり宗教というものを意識せずに生活しています。多くの戒律を守り、日曜に教会に行って教えや戒律について考える、というユタの人たちの生活は私にとって新鮮なものであり、興味深かったです。何度か信仰している宗教は何かと聞かれ、仏教だと伝えましたが、日本人特有の宗教観を伝えられる英語力が私にはなく、用意していけばよかったと後悔しています。

世界的にみると少数派の宗教であり、変わった戒律もあるため敬遠しがちですが、偏見を持たずに話を聞いてみるのも良い経験になると思います。

▼来年参加を考えている方へ

今回のプログラムで、私が次に参加する人たちに伝えておきたいことがいくつかあります。

まず、今回入国時に起こったトラブルについて。入国審査の時に、私たちは短期の留学であると伝えてしまったのですが、ESTAで渡米する場合、観光と言わなければならなかったようです。これのせいで少し足止めされていました。

次に気候についてです。9月でしたがシーダーシティは暑くて、乾燥地帯のためほとんど雨が降りませんでした。空港のあったラスベガスはあり得ないほどの暑さでした(35度越え)。外は真夏の服装でよいのですが、学内は空調が効いていて、日本人には肌寒いです。パーカーや羽織るものが必需品でした。また、とても乾燥しているので、ボディクリームやリップクリームは持って行ったほうがいいと思います。

また、今回私が後悔したことは、もっと日本のことについて答えられるようにしておけばよかった、ということです。授業の中でブライスカニオンについて知る機会があったのですが、その時北海道の国立公園は何個あるのか聞かれ、答えられませんでした。何が国立公園なのかもわからなかったです。

そして最後に、私が大切だと思ったことは、自分の意思を持ってそれをしっかり伝えるということです。プログラム中のスケジュールがよくわからないまま過ごしていた部分があり、しっかり先生に聞いて、自分たちがやりたいことを伝えればよかったですと思いました。また、ホームステイの中でも、何度もやりたいことを聴いてくれたので、アメリカで自分が何をしたいのかを考えてから行くと、充実したプログラムになるのではないかと思います。

シーダーシティの時間の流れは、日本よりもゆっくりに感じられ、人々も自由でおおらかな人たちがかりでした。学内やお店や道端で初めて会った人とでも挨拶や会話を楽しんだり、フレンドリーな街でもありました。日本にはない考え方や習慣は、素敵だと思うことも日本の方がいいかもと思うこともあります。海外を経験することで、その国の良さを知り、自分の持っている偏見を無くすことができるだけでなく、日本の素晴らしさも改めて実感できる機会になると思います。私は 3 週間という短い期間で、シーダーシティという街が大好きになり、ホストファミリーとの別れが辛くて号泣するくらいに家族が大好きになりました。少しでも興味のある方は、ぜひチャレンジしてみてください。素敵な経験と出会いと発見が待っています。

最後に、このプログラムをサポートしていただいた、Oh 先生、Smith 先生、札幌校と函館校の学務グループの方々、受け入れてくださったホストファミリー、一緒に参加した楽しくて面白い仲間たちに感謝します。本当にありがとうございました。



ホストファミリーとの夕食 ↑



大学内の時計塔 ↑



ラスベガスで買い物 ↑



学生との交流 ↑